



ゆき なに 雪は何からできているの

こおり けっしょう 氷の結晶からできている

ゆき ふ くも ちい こおり あつ
雪を降らせる雲は、小さな氷のつぶが集まってできています。

この雲がある上空では、気温が低いので、まわりの冷たい空気に冷やされて、空気中の水蒸気が水のつぶにならないで、氷のつぶにくっついて、氷のつぶがだんだん大きくなります。そして、大きな氷の結晶になります。この氷の結晶がとけないで、地上に落ちてきたものが雪です。

ゆき けっしょう かたち 雪の結晶にはいろいろな形がある

ふ 降ってくる雪の結晶を、むし 虫めがねなどで見てみると、ふ 降ってくる雪のちがいによって、いろいろな形をしています。

ゆき けっしょう かく いた かたち はしら かたち まい はな かたち はり
雪の結晶は、角ばった板のような形、柱のような形、6枚の花びらのような形、針のような形など、いろいろな形をしています。

ゆき けっしょう かたち
雪の結晶にいろいろな形があるのは、ゆき ふ 雪が降ってくるとちゅうの、しつど きおん たか 湿度や気温の高さのちがいによります。

とちゅうの気温が高いときは、ゆき ひょうめん 雪の表面がとけて、いくつかの雪の結晶がくっついて、おお 大きなぼたん雪になります。また、気温が低いときは、ちい 小さい結晶のままで、さらさらとしたこなゆきになります。(監修・村山 貢司)

